

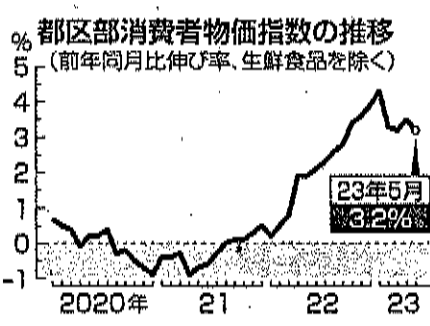
都内物価 3.2%上昇

5月伸び鈍化も食料品高騰

総務省が26日発表した5月の東京都都区消費者物価指数(中旬速報値、2020年1100)は、価格変動の大きい生鮮食品を除く総合指数が104.7と、前年同月比3.2%上昇しました。

生鮮食品を除く食料は8.9%上昇で前月と同じ高い伸び。調理食品が10.1%、食用油が24.0%上昇。鶏卵は市場価格の上昇や鳥インフルエンザの影響で31.1%上昇と伸びが拡大しました。

一方、エネルギー価格は8.2%低下(前月は2.6%低下)しました。このうち都市ガス代は1.9%上昇しましたが、電気が16.1%低下。2月からの負担軽減策に加え、再生可能エネルギー発電促進賦課



金の引き下げなどが影響しました。電気代は比較可能指標となります。

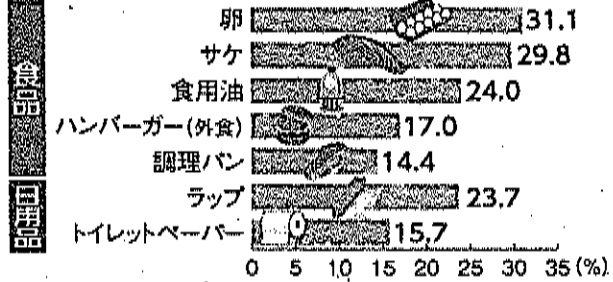
物価高暮らしを直撃

生鮮食品を除く総合指数が前年同月に比べ3.2%上昇した5月の東京都都区消費者物価指数。食品や家事用品など生活必需品の価格上昇が目立ちます。

生鮮食品とエネルギーを除く総合指数は3.9%上昇と1982年4月以来41年1カ月ぶりの上げ幅でした。宿泊料の伸びが11.5%と前月(8.1%)から加速。需要増加に対し人手不足で供給が追い付いていないことが影響しました。

一方、エネルギー価格は8.2%低下(前月は2.6%低下)しました。このうち都市ガス代は1.9%上昇しましたが、電気が16.1%低下。2月からの負担軽減策に加え、再生可能エネルギー発電促進賦課

物価上昇の目立つ品目



な70年1月以降、最大の下落幅でした。生活実感に近い生鮮食品を含む総合指数も3.2%上昇しました。東京都都区の指数は、来月23日に公表される5月の全国消費者物価指数の先行指標となります。

生鮮食品を除く総合指数は104.7となり、前月の104.8に次いで比較可能な1970年1月以来、2番目に高い水準となりました。消費者物価指数は2020年平均を100とする物価水準を示したものです。前年同月に比べ上昇したのは、調査対象となっている572品目中、450品目を占めます。

値上げが目立つのが食料品です。卵(31.1%)やサケ(29.8%)、食用油(24.0%)、調理パン(14.4%)など日常の食卓に欠かせない食材が軒並み2桁の上昇です。また、家庭・家事用品は9%の上昇。日常生活に欠かせないトイレトペーパーは15.7%もの

上昇でした。生活必需品の高騰は暮らしを直撃し、格差を拡大しています。(清水渡)

光熱費 8割の企業で増加

民間信用調査会社の帝国データバンクが24日発表した企業アンケート調査によると、2022年度の光熱費が前年度と比べて増加した企業が約8割にのぼりました。また、1社当たりの増加額は平均で47.8万円でした。

帝国データバンクは、4月までに22年度決算が判明した企業が、21年度の業績と比較可能な約3万8000社の光熱費を調査。約8割に当たる約3万1000社で、支払った光熱費が増加していました。1社当たりの増加額は平均で47.8万円にのぼり、月額で約4万円の新たな光熱費負担が発生していました。

光熱費が増加した企業の割合

割合	企業数 (%)
100%以上	4.6%
80%以上100%未満	1.4%
20%以上80%未満	30.7%
20%未満	44.3%
前年度並み/減少	19.0%

(帝国データバンクの資料から作成)

国内の電気料金は6月以降、値上げが相次いで実施されます。帝国データバンクは、「今夏以降にさらなる負担増を迫られ、収益環境が一層厳しくなる企業が増加する可能性がある」としています。